

# 議会改革特別委員会

## 行政視察報告書

### 報告者

|     |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|
| 委員長 | 永岡 静馬 | 副委員長  | 坪内 涼二 |
| 委員  | 多田 伸治 | 森脇 悦朗 | 島田 修二 |
|     | 石橋 孝義 |       |       |

### 視察項目

山口県長門市  
【平成29年11月6日（月）】  
・タブレット端末の導入について

平成29年11月10日

江津市議会議長 田中直文様

平成29年度 議会改革特別委員会視察報告

議会改革特別委員会委員長 永岡静馬

【日程】

平成29年11月6日(月)

【視察先】

1. 山口県 長門市

「タブレット端末の導入について」

【視察報告】

〔事業の概要〕

平成25年12月に議会基本条例を制定することを目的に、議会改革特別委員会が設置され、所掌事務の一つとして「情報通信の充実に関すること」を定めて、タブレット端末導入・ペーパーレス化を目指すこととなった。平成26年9月定例会で試験導入し、12月定例会からの本格導入を目指すことを全員協議会で承認された。端末購入費用・通信費用は、自己負担とする。

9月定例会では、議員17名中12名がタブレットを持ち込み(試験導入)をした。PDF閲覧アプリ「サイドブックス」、無料クラウドサーバー「ドロップボックス」を使用した。使用上のルールとしては、禁止事項として①会議に関係のない情報やサイトの閲覧、②会議の録音及び録画、③電子メール、SNSなどによる情報の発信、である。

10月には議会改革特別委員会にて、試験導入の検証を行い、平成27年6月定例会からペーパーレス化することを決定し、全議員には協議会の中で報告することを確認した。6月定例会では16名中15人がタブレットを持ち込みした。(1名は健康上の理由により紙資料とする)

電子データ化する資料としては、議案、全員協議会資料、次第書等、ほぼすべての書類を議会事務局で対応し各議員に電子データとして提供している。会議レジューメは紙配布とし、当初予算書および決算書は希望者には紙冊子を提供している。

使用するクラウドについては、「サイドブックス」クラウドで、議案や会議資料全般を1年分保存(約

500MB) 初期設定費用は、8万円。月額利用料は(1GB) 2万円。ライセンス(50人以下)は月額1万円。公開後1年を経過した資料は、「サイドボックス」クラウドから削除し、「ドロップボックス」(無料)にアップする。

データのアップについては、誤操作によるデータの削除等の恐れがあるため、管理権限については事務局職員のみが付与している。データについては、担当課から庁内共有フォルダ、電子メールにより提供を受け、事務局で必要に応じてファイルのフォーマットをPDFに変換し、クラウドにアップしている。

その他の使用では、カレンダー(アプリ)の共有や事務局連絡をgmailで行っている。

ペーパーレス化により年間のコピー機の使用枚数は、従来の約6万5千枚から1万8千枚と激減し、紙代の費用も約6万4900円経費の削減になっているが、タブレット端末導入に係る経費が約57万円となっており、経費削減の効果は期待できない状況であった。

事務局としては、事務処理の作業が格段にスムーズになり、事務連絡等もやりやすくなった。

なお、市の執行部は導入していないということであった。

#### 〔感想〕

当初、ペーパーレス化することにより経費が相当削減されたのではないかと推測していたが、クラウドの維持費がかかっていることが分かり、経費節減という観点からは、効果が見込めないように思った。事務局の事務負担がかなり軽減されて、作業効率の向上に寄与していることを担当者の話から、よく分かった。さて、本年1月に「サイドボックス」の研修を受けた時には、紙の資料を持ち歩かなくて便利になると感じた。それは今でも、そう思っているが、経費節減というテーマは、主張しにくいように思う。それでも、タブレット端末を導入するメリットは、どこにあるのか。

これからますます情報のデータ通信技術の発達・発展により、タブレット端末でないと対応しきれない時代が来るのではないかと、という危機意識が自分の中のアンテナのどこかにあり、背中を押し上げているように感じる。情報の公開にしても、タブレットにして電子データで対応していくことが必要な時代がすぐ来るのではないかと。そういう感想を持ちながら視察を終えた次第です。

# 議会改革特別委員会 行政視察報告

議会改革特別委員会

副委員長 坪内 涼二

長門市では、平成 25 年 12 月に議会改革特別委員会が設置され、所掌事務の一つとして「情報通信の充実に関すること」を定め、タブレット端末の導入およびペーパーレスを目指してきました。直前の市議選で若手議員が増加したこと、ベテラン議員が既にタブレット端末を持っていたこともあり、平成 26 年 9 月議会での試験導入、同年 12 月議会からの本格導入を目指すきっかけとなりました。

試験導入（平成 26 年 9 月）では 17 名中 12 名がタブレットを持ち込み、試験導入の検証として、平成 27 年 3 月議会までは紙とタブレットの併用とし、6 月議会からペーパーレスとすることを決定しました。議員のなかには一部不安視する声はあったものの異論はなく、平成 26 年 12 月議会では 16 名中 13 名が、平成 27 年 6 月議会では 16 名中 15 名（健康上の理由により 1 名は紙資料）がタブレットを持ち込み、タブレット端末導入は早期に実現したとの印象を持ちました。

印刷費は減っているものの、事務局タブレット 3 台の使用料（年間 18 万円）と有料クラウドサーバー利用料（年間 36 万円）の費用が増え、全体としては経費削減につながっていない場ではありましたが、事務局職員が 1 名減員になっており、資料の送付（長門市では会議資料を各議員に郵送している）の通信料や事務負担の軽減は図られています。

タブレット端末購入および通信費は、議員個人負担で、アプリをダウンロードし、そこで資料が閲覧できます。長門市では、執行部側は導入していないため、大きな印刷費削減につながっていないものの、議会事務局職員減員を事務局負担の軽減ととれば、経費削減に寄与していると言えます。

長門市では、議会と事務局で、Google カレンダーを共有し、スケジュールを共有しています。そういったことは、タブレット端末導入をするしないに関わらず、すぐにでも実施できることだと感じました。タブレット端末導入についても、長門市のように議員個人負担での導入であるなら、事務局用タブレット購入費及び優良クラウドサーバー利用料についても必要経費として理解がいただけるのではないかと思います。

タブレットを導入するかどうかではなく、導入により「議会の見える化」をどう図るかが重要ではないかと考えます。情報化社会がますます進むなかで、より効率的に議会活動を展開する上でも、導入に向けた議論を加速する必要があると感じました。

2017年11月13日

## 議会改革特別委員会での行政視察についての報告

委員 多田伸治

### ☆山口県長門市 タブレット端末の導入

11月6日に山口県長門市を視察し、議会改革特別委員会での検討課題となっている『議会のICT化』に絡んで、『タブレット端末の導入』について調査しました。視察では、長門市議会の議会事務局職員から導入後の状況が説明されました。

長門市議会では、2014年からタブレットを導入。議員へ配布する資料を電子データ化し、議員はタブレットで資料を閲覧しています。また、スケジュールの連絡などもタブレットを通じて行っています。導入の目的は、議会事務の効率化や迅速な情報共有で、将来的なペーパーレス化も視野に入っています。

ただ、タブレットの特質として、画面はA4用紙より小さく、2つ以上の資料を並べることはできないなど、資料を精査する上で必ずしも便利とは言えません。そのため、希望する議員には紙の資料を配布しています。

全国的には、議会から議員へタブレットを支給するケースもありますが、長門市議会では議員が個人で購入し、通信費も議員が負担しています。議員個人の私物であるため、インターネットやメールなどの私的利用も可能ですが、「議員活動以外では使わない」として、政務活動費（長門市議会は年間9万円）をその費用に充てる議員もいるそうです。

費用については、配布する紙の資料が減ったことで印刷の経費が削減できたものの、議会事務局用にタブレットを購入・使用する必要があり、その費用と比較すると、かえって増大しているとのことでした。

江津市議会が議会改革を進める上で、最大の課題と言えるのが『議会の活性化』です。そのため、質疑で「タブレット導入で、議会が活性化したか」と問いましたが、特にそういった動きはないとのことでした。

#### ▼視察後の所感

タブレット端末があれば便利とは感じましたが、議会での最大の課題である『議会の活性化』につながっていない状況を見るに、なによりも優先して導入しなければならないものではありませんでした。

9月議会で、2日にわたった『平成28年度決算の審査』において、全く質疑を行わない議員が複数名いました。この有様と長門市の状況から、各議員の

意識改革がなければ、タブレットを導入し迅速に情報を得られたとしても、資料を詳細に精査し、活発な質問・質疑を行なうような動きにはつながらないと思われる。

ただ、すでに個人的にタブレットを所持している議員もいるので、そういった議員から現状で可能な利用(資料の電子データ化・スケジュール管理など)を進めて、状況を見るのが良いかもしれません。

仮に導入するとしても、議員としての用途と私的利用の境界が不明瞭な点と、導入の費用の問題から、購入費・通信費は議員個人の負担とすべきです。また、タブレットの機能に限界があることから、長門市と同様に希望する議員には紙の資料を必ず配布することが絶対の条件となります。

一方で、長門市議会では本会議だけでなく委員会の会議録(議事録)も公開しているとのことでしたので、江津市議会の議会改革としては、これに倣って委員会の会議録の公開を行うべきと思います。

# 行政視察報告

議会改革特別委員会

委員 森脇 悦朗

## 1. 視察先 山口県長門市

【日時】 平成29年 11月6日（月）

### 【視察内容】

タブレット端末の導入について

### 【所感】

長門市のタブレット端末の活用については、ペーパーレスの観点ではなく、電子化された資料の閲覧とカレンダーアプリによるスケジュール管理、そして事務連絡ツールとしての活用が主であることが理解できた。この方式は、タブレット端末自体の購入、通信料の支払いが各議員個人の負担であることもあり、導入経費とランニングコストに多大な費用が掛からない点では一つの方法であると考えます。

本市においてこういった形が良いのかは議論の必要はあるが、「SideBooks」導入により、議員個人のペーパーレス化につながり、通信環境次第ではどこでも閲覧できることから、先行して導入してみるのも手であると感じた。また、事務局の事務軽減につながったとの話から、特に本議会の事務局体制が脆弱なことを鑑みればコスト的に無駄ではないと考えます。

いずれにしても、今後の調査として執行部とともにペーパーレス化を実現した議会の例も研究する必要があると考えます。

# 議会改革特別委員会行政視察報告

委員 島田修二

平成29年11月6日

○視察先 山口県長門市

\*視察目的 タブレット端末の導入について

タブレット端末の導入を検討している議会改革特別委員会で山口県長門市議会を視察し、議会事務局の担当者より説明を受けた。

【感想】タブレット端末の導入をすることでのメリットは、

- 1、スケジュールの管理が容易である。
- 2、議員間・事務局との情報の共有ができる。
- 3、情報の発信が早い(情報の変更など)
- 4、事務局職員の事務作業の負担が軽減される。

など、議会活動において有能な部分が多いと思われる。しかし、パソコンなどの操作が不得意な者においては、使い慣れるまでである程度の時間が必要になるのでは？

将来的には導入の方向で検討が必要ではと思う。

「議会改革特別委員会行政視察」  
「タブレット端末の導入について」の感想

江津市議会 石橋孝義

視察先：山口県長門市

日 時：平成29年11月6日（月）13時30分から15時30分

○ 導入についての協議説明を受ける（主なもの抜粋）

H25.12.05 議会改革特別委員会設置

タブレット端末導入、ペーパーレスを目指すべく、所掌事務の一つとして「情報通信の充実に関すること」を定める。

H26.07.15 議会改革特別委員会 端末の試験導入を決定

H26.07.29 議員全員協議会・9月定例会でタブレット端末の試験導入を決定

H26.09.05 9月定例会 試験導入

（17人中12人タブレット持ち込み）

無料クラウドサーバー「DropBox」を使用

H26.10.01 試験導入の検証

H26.11.28 12月定例会

（16人中13人がタブレット持ち込み）

※各自まちまちの機種で個人負担

H27.06.12 6月定例会

（16人中15人がタブレット持ち込み）

※タブレット端末の試験導入に際して、本会議や委員会などすべての会議、持ち込みが可能にした。

・禁止事項

- ① 会議に関係のない情報やサイトの閲覧
- ② 会議の録音及び録画
- ③ 電子メール、SNSによる情報の発信

[感想]

1. タブレット導入は時代の流れの中で導入されたが、大きなメリットを見いだせないと感じた。例えば、
  - ① 諸経費は、初年度65万円から次年度57万円程度かかる。
  - ② 予算決算の説明書、全協で6割はペーパーである。
  - ③ 自分で印刷し、質疑している。
  - ④ パソコンの持ち込みの禁止が必要。
  - ⑤ 執行部、議会事務局員の作業負担は増えると感じた。（一人の増員が必要）

- ⑥ 議員の負担は増える。
- ⑦ 報告は見比べることができない。
- ⑧ 全てにゆっくり説明する必要があり、時間がかかり、議論がおろそかになる。
- ⑨ 使用のルール作りが必要。リスクがあり、ヘッジする必要がある。

ー利点ー

- ① スケジュール管理がやりやすいし、共有できる。
- ② 情報公開しやすい。
- ③ 議会・議員のスキルアップにつながる。

#### [総括感想]

- ① 政務活動の一環として、議員のスキルアップとしての使用は良いとしても、個人所有の個人負担が原則のように思う。(同一機種が原則)
- ② 全員が同じ土俵に上がらないと意味がない。(各個人の自主性に任せるものではない。)
- ③ 議員の個人負担が経費を含め増える。
- ④ 議会事務局・執行部も相当な仕事量負担が増える。
- ⑤ 経費も増える。
- ⑥ メリットとデメリットを対比しても、すぐ導入をしなければならない理由が見つからない。
- ⑦ 個人まちまちに任せる考えには同意できない。
- ⑧ 時間をかけてしっかり江津市議会としての方向性を検討・協議したほうが良いと考える。

※他市町村がここにきて再検討、導入の見送りや導入した市町村の評価が芳しくないことを考慮すると、導入は見送るべきと考える。

以上